

さいたま市市民活動サポートセンターができるまで ―[協働の760日]

INDEX

Prelude	001	「協働」の旗印のもとに――発刊にあたって
	002	さいたま市市民活動サポートセンター紹介 市民に開かれた、成長する、集まりやすく居心地のよい、さいたま市市民活動サポートセンター
	004	市民活動を支えるさまざまな施設・設備
	008	誰もが使いやすいユニバーサルデザイン
	010	市民活動の情報発信と交流の場をつくる――ホームページ・データベースとPR
	012	サポセン、デビュー!オープニングイベント
	014	市民と行政が協働でつくった市民活動サポートセンター
	015	いろんな機能が集まっているコムナーレ
Overture	016	市民活動と行政との関係をめぐって/中村陽一
	020	市民活動サポートセンター計画前夜――キーワードは「協働」
Act I	022	整備検討委員会とワークショップ活動の体制づくり――そうだ、市民参加で行こう!
	024	ワークショップ活動と市民参加の整備検討委員会――行ったり来たりで、「協働」で ワークショップ各グループの活動と提案
	032	ワーク21 ―― 21世紀にふさわしいサポートセンターを目指して
	033	夢工房――たくさんの希望をこめて
	034	コスモス――さまざまな彩りの提案と成長への期待と
	035	やおよろずの会――その「やおよろず」な提案
	036	休日返上グループ――その夢、実現したこと・しなかったこと
	037	ワークショップ各グループの提案――いろんな声がせいぞろい
Intermission	042	提言書と基本計画の策定――枠組みはできた。さて次は?
	046	市民活動サポートセンター条例の制定――市民参加を保証する
Act II	048	「協働」による基本計画の具体化――市民力を活かして 市民主導プロジェクトチームの活躍
	058	市民参加プロジェクトチーム――市民の声が反映できるサポートセンターを
	060	公開プレゼンテーション――市民に見える管理者選び
	062	情報支援プロジェクトチーム――サポートセンターをサポートする
	064	PRプロジェクトチーム――多様な人々の開かれた交流のための多彩なメディア
	066	利用ルールプロジェクトチーム――多様な市民が交流できるルールを
	068	サービス内容プロジェクトチーム――市民活動を支える「こと・もの」を提案
	070	ユニバーサルデザインプロジェクトチーム――市民だれもが使いやすい施設を求めて
	072	市民参加による設備決定――施設・設備も市民参加で
	074	オープニングイベントプロジェクトチーム――あなたも「サポセン・デビュー」しませんか
Epilogue	076	座談会：市民活動サポートセンターの過去・現在・未来――市民から「市民」へ
Applause	086	編集後記・去れど我が日々・・・
	088	参考資料/より深く知りたい方は/謝辞
Encore	089	さいたま市市民活動サポートセンターができるまで 年表

「協働」の旗印のもとに――

発刊にあたって

「協働」という言葉には、さいたま市の市民活動推進委員会の冊子で初めて接し、斬新に受け止めました。しかし正直なところ、私にはそのイメージが素直に理解できませんでした。市民と行政が「新しい公共」という共通の目標に向かって、対等のパートナーとしてどのような取り組みが可能なのか。また、市民活動における「協働」とは何か?こうした自問もありました。

そうした折、一市民の立場で「市民活動サポートセンター」の実現に関わり、3年間にわたり市民と行政の“協働”のありようをつぶさに実感しました。当初は、“協働”への不安、戸惑いがみられましたが、回を重ねるごとに両者の意思疎通に円滑さを増し、厳しい意見のやり取りの中にも節度ある交流の成果が相互信頼を育みました。

サポートセンターは、「市民に開かれた」「市民とともに成長する」「集まりやすく居心地のよい」という3つの理念を掲げています。市民がどうこれを受容し、実際活動に転化していくのか。この舵取りこそがこれからの“協働”の課題と言えます。

地域とは、性別、年齢、職業、そして障がいある人も健常者も、生活の場を共有するのが本来の姿です。その場づくりが果たされた時にこそ、市民と行政の“協働”により構築された「さいたま方式の市民活動サポートセンター」として世にアピールすることが叶はずです。

ここに市民の活動拠点が得られるまでの経緯を冊子にまとめました。この中から、次のステップに向けての新たな発見があれば幸いです。

さいたま市市民活動サポートセンターは、「地域または社会における課題の発見及び解決のために、自発的かつ自主的に行う非営利で公益的な活動」を支援し、その活性化を図ることを目的としており、本市の都市づくりの基本理念である『市民と行政の協働』において重要な役割を果たす、国内でも最大規模の施設です。

計画当初から市民の皆様への参画をいただき、約2年間に亘るワークショップと整備検討委員会での協議の結果、施設の隅々まで皆様方の意見を取り入れた施設として完成しました。

完成後の施設の管理運営につきましても、市民活動



を支援する拠点であるとともに、より良い協働の仕組みを育てていく実践的な拠点としていることから、市民が主体となって構成する市民活動団体を指定管理者とし、行政との役割分担を行いながら協働管理運営を行う方法が取り入れられました。

市民の皆様と行政と一緒に取り組んだ経緯を記録に残すことは、単に資料として価値があるだけでなく、関わった皆様の情熱を伝え、時々の考え方を記すことで、さいたま市市民活動サポートセンターの誕生の姿を浮き彫りにするとともに、これから協働による施設整備を考える人々にとっての貴重な参考書にもなることと思います。

ご協力をいただいた多くの方々のご尽力に感謝申し上げますとともに、引き続き、市民とともに成長するさいたま市市民活動サポートセンターを見守って頂きたいと思います。

「サポートセンターができるまで」編集長
荒木利治

さいたま市長
相川宗一

2008年3月